

日本共産党 和歌山市会議員

# ひめだ高宏ニュース

NO.1188  
18.2.13

## まもなく2月定例会市議会が

今年度の最終補正予算と新年度当初予算などを審査する2月定例会市議会の日程案などを決める議会運営委員会が2月16日(金)に開かれると通知がありました。この日の午後には全員協議会が開かれ、市長から新年度予算の内示が行われる予定です。

## 東京大学と連携協定締結

市・政策調整課から東京大学と連携協定締結をめぐり取り組みを進めていくとの報告がありました。内容は次のとおりです。

1. 経緯  
2014(平成26)年度が

ら加太を研究対象地として、地域の方々と連携し「古民家屋を活用した地域活性化」などについて調査・研究を続けてきた東京大学の川添研究室・川添進教授より、研究内容を深化させるため

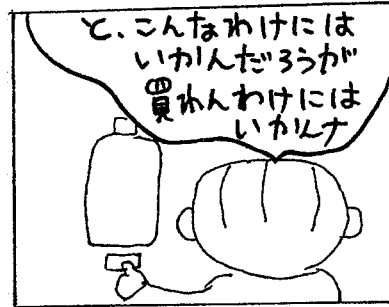
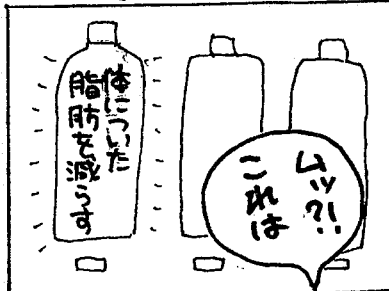
加太分室設置の提案があったことから、双方が協力することが有効であると考え、この度、東京大学の分室設置と連携協定締結を進めていきます。

2. 協定書の内容

まちづくりなどの各分野で加太の密接な協力と連携を図り、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与する事を目的とした協定で、次の事項について、連携・協力します。

(1) 地域文化・産業の振興に関すること  
(2) 関連する学術の発展に寄与すること

## フリーの人々



(3) 教育・人材育成に関すること  
(4) 特定地域における特定まちづくりに関すること  
(5) その他本協定書の目的を達成するため必要事項

## 今週のフリーの人々 (その134)

「フリーの人々」が出る言葉  
「限定品」と言われると、ついつい手を伸ばしてしまう人も多いのではないでしやうか。どっちかという私もそのうちです。先日、ふだんあまり行かない所にある自販機で飲み物を買おうとすると、目に飛び込んだのが「体についての脂肪を減らす」という文字... 茶を600ml飲んだぐらいで体の脂肪が減るわけがないと思っただけです。

3. 必事となる予算  
分室等の拠点改修費用と研究補助金を助成する予算を2018(平成30)年度当初に計上したいと考えています。

「これを買わないわけにはいかんナ」といふ言いはその妻茶を買ったのです。メタボの心理を読んだ見事なキャッチコピーにキヤッチされてしまったといふことです。ちなみに私は先日、お医者さんから「太りすぎなので毎食のごはんの量を減らしたほうがいい」との助言を受け実行中。2年ぶりに体重が2kgに戻ったのです。とはまえて、ほぼ3kgですけれどネ。



ひめだ高宏

4. 締結日

2018(平成30)年3月末(予定)

5. 予定している調査・連携事業の内容

- (1) 加太等漁村集落の文化的景観を担保する都市再生に向けた取組に対する研究(空家活用など)
- (2) 女性が島の活用計画に関する調査・立案
- (3) 地域住民に対する研究成果の発表会の実施
- (4) 地域内外の大学との交流

活動・研究の実施

【参考】東京大学及び川添善行准教授について

・1877年創立。今年度140周年を迎える。

川添善行准教授(1979年神奈川県生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、デルフト工科大学(オランダ)留学を経て、建築家の内藤廣(元東京大学副学長、現東京大学名誉教授)に師事。2014年から東京大学生産技術研究所准教授。

「いんぽんち」は松坂みち子です

こんなときどうするの?

地震等災害対策特別委員会視察で、福岡県久留米市へ行きました。夕方着いたときにも雪模様でしたが、翌朝には真っ白。タクシーで視察場

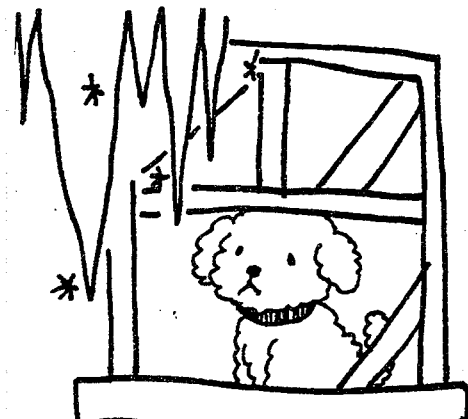
所へ向かいましたが、激しい寒波でほとんどの動きが止まらん。雪で高速道路が閉鎖となり、国道に車が集中したためということでした。

災害といえば、地震や台風をまず考えますが、この冬は和歌山でも雪を見ることが多くなっていきます。慣れないため、少しの雪でも混乱するかもしれません。



松坂みち子 (県議予定候補)

いんぽんち(いんぽんち)は、場面を想定して、その時どうするか、思った通りにはなかなかないでしゅ。でも、それでも考えておくことが大事なのだと思います。



(カット・小田 表)

建築設計・風景論を専門として、研究活動と設計活動を横断的に展開している。代表作は交なホテル(ハウス・テンボス)、東京大学総合図書館新館など。

潮流

(18.2.10 時評)

その光景は、18歳の青年の人生を安んずけた。焼け野原と化した街、がれきに埋もれる人びと。第2次大戦の終結後、ウイリアム・ペリー氏は米陸軍の一員として沖縄の地を踏みつけた。▼のちに国防長官の職につくペリー氏はそこで二つの教訓を得たといっています。死と破壊をもたらす戦争には栄光が存在しないこと。将来核戦争が起きれば死と破壊にとどまらず、文明の終えんをもたらしうこと(なるー) 日核戦争の瀬戸際で「▼長年、米国の核戦略は携わってきたペリー氏。キェーバ危機や北朝鮮の核開発危機に直面しながら、核戦争という想像を絶する結果について深い思索をこぼしてきました。たどりついた結論は、人類は二度と核兵器を使ってはならない、そのため自身の経験を語っ

ていくことでした▼トランプ政権下の米国は、核兵器を使いやすくする戦略を打ち出しています。小型核兵器の開発や配備をすすめる。状況に応じて使い分け、多様な核戦略への転換。世界の核廃絶の流れに逆行する企てです▼被爆者をはじめとする怒りの声。ところが安倍政権は、河野外相が「高く評価する」との談話を出すばかり。これが唯一の戦争被爆国の態度かと批判はこぼれに▼本紙にも登場した90歳のペリー氏は、自身の名を付けた教育的な計画を立ち上げています。目的は、核の危険性への理解を向上させる。その危険性を大幅に減らすための行動を促進すること。自分たちが果たせなかつた核なき世界を、次の世代に託して。

赤旗 日刊紙 3,497円/月 日曜版 823円/月